

『経営者による見直し記録』 昨年度の環境改善活動を振り返り、更に力を入れたいこと

昨年度の活動の振り返りとして、社長からコメントをいただきました。この内容に対する活動目標を考え、各チームの活動計画に盛り込んで下さい。そのための活動のポイントについて、ISO事務局から皆さんに提案いたします。

改善の必要性についてのコメント及び指示内容

【方針】

環境ISOの2015年度版に移行するに当り、本年を「環境元年」と位置付け、品質のISOとの共通項を見つけ、日々の生産活動が自然に環境活動と結びつくような形を作り上げる。現場の人達への環境への意識付けをどう高めていくか。

【目的・目標】

品質の向上をめざし、クレームをなくす活動に力を入れることで、不良が削減出来、おのずと環境の改善につながるような仕組みを作る。目標値を設定するだけでなく、具体的に実施する項目を決め、どれくらいの成果が生まれるかを想定して下さい。

【その他の環境マネジメントシステムの諸要素】

内部監査の変更により、新しい目線での監査が出来たが、「経営資源」である人の育成にもっと力を注ぐ必要がある。

【改善のための提案】

副資材を購入するに当り、環境基準製品であるか確認をしているが、社内で使用する際、使い方によっては環境を害する物質を発生させる可能性がある。現場との意見交換をしっかり行い、正しい使い方を現場に示して下さい。

《 ISO事務局からの提案 》

→ 全社クレーム‘0’ラリーを始めてから時間もたち、実態と合わない項目もあるので登録内容を見直す(5月度～)。必要に応じチーム毎に活動目標を追加設定する。また、課題ラリーに環境目標を記入し、意識してもらうことで、日頃の儲ける活動と環境活動を結び付ける。

→ 品質の具体的な改善目標をたてることで、どれだけ儲かるかを想定してみる。

→ 各チームの年間活動計画に「人の育成」は盛り込まれていますか？必要に応じて人の育成について目標を追加設定して下さい。

→ ISOT、ESSG、SMPT、SKCTが対応する。現在使用している化学製品の中で、複数同時使用で化学反応を起こす恐れがあるものを選定し、SDSなどを活用し危険予知を実施する。結果、環境を害する可能性があるものは関係チームと注意すべき事を確認の上、作業標準を早急に見直す。